

# 虫刺されに注意しよう！



蚊をはじめとする虫たちが活発な時期になりました。子どもたちは汗だくになり外遊びを楽しみますが、汗の匂いにつれられて、虫たちも羽音をたてながら子どもたちに気づかれぬようにそっと近づいてきます。今回は虫刺されについてお話します。

## 蚊に刺されると、 すぐはれるのはなぜ？

蚊は、血液を吸うときに自分の口から唾液の成分を私たちの体に注入します。この成分に、免疫が過剰に反応してアレルギーを起こし、はれやかゆみを起こします。

ただ、蚊に刺されたことのない赤ちゃんや小さな子どもでは、体の中でアレルギーが起こるのに時間がかかり、反応も強くなります。そのため、少し時間がたってから、すぐはれてびっくりすることがあります。

## 1～2日後に はれてくる

刺された翌日くらいから、赤くはれたり、水ぶくれになったりし、数日続きます。



## ひどいときは病院へ

炎症を抑えるステロイドの塗り薬が必要な場合がありますし、水ぶくれからばい菌が入る危険があります。ひどいときは早めに小児科や皮膚科で相談しましょう。

## 「たかが蚊」とあなどらないで

赤ちゃんのころは蚊に刺されるとひどく腫れますが、成長とともに、1～2時間ほどで痒み・腫れが治まるようになってきます。

「これなら大丈夫」と思いたいところですが、子どもはかき壊して傷になることがあるので注意しましょう。

## 虫を寄せつけない工夫も大事

長そで、長ズボンで肌を覆う、虫よけを適切に使うなどで、蚊に刺されるのを防ぎます。



## かき壊しから皮膚トラブル になることも

虫刺されをかくて皮膚に傷ができ、そこからばい菌が入り「とびひ」などの皮膚トラブルを起こすことがあります。かき壊しを防ぐためには、次のポイントに気をつけましょう。

### かゆみをやわらげる

かゆみ止めを塗ったり、水で冷やしたりしてかゆみをやわらげます。

### つめを切る

つめが伸びていると皮膚を傷つけます。短く切って、角はやすりなどで削ってあげましょう。